

大橋川周辺のまちづくりを考える市民意見交換会

会 議 要 旨

【日時及び場所】

日 時：平成18年9月10日(日) 13:30～17:00

場 所：くにびきメッセ 1階 多目的ホール

【出席者】

一般参加者

一般参加者数：93人

大橋川周辺まちづくり検討委員会

島田委員長、布野副委員長(景観専門委員長)、門脇副委員長、桑子委員(作業部会長)、

荒木委員、有光委員、飯野委員、泉委員、井上委員、木村委員、後藤委員

景観専門委員会

布野景観専門委員長、松本委員、吉田委員

【会議次第】

開 会

挨拶(島田委員長)

意見交換

テーマ：平成18年7月豪雨について

テーマ：大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)について

総 括

閉 会

【配布資料】

大橋川周辺のまちづくりを考える市民意見交換会プログラム

資料1 大橋川周辺まちづくり検討委員会について

資料2 平成18年7月豪雨 斐伊川・神戸川流域の被害概要等速報

資料3 平成18年7月豪雨における大橋川沿川浸水被害状況

資料4 大橋川周辺まちづくり基本方針・基本計画の作成にかかるこれまでの過程と今後の流れ

資料5 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)

資料6 第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果

【大橋川周辺地域のまちづくりに対する想い・意見「まとめ」】

資料7 第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果

【大橋川周辺地域のまちづくりに対する想い・意見「意見一覧」】

資料8 第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会が出された意見に関する参考資料

資料9 第4回・第5回景観専門委員会からの結果報告

【大橋川沿川の景観形成に関する基本方針(案)】

資料10 第4回・第5回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果

【議論の要旨】

資料11 大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)の治水対策協議会説明会で出された意見

資料12 「大橋川改修の具体的内容」の公表後の情報提供の状況

参考資料 大橋川は今(パンフレット)

テーマ :平成18年7月豪雨についての感想・意見記入用付箋紙

テーマ :大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)についての意見記入用付箋紙

市民意見交換会に関するアンケート

意見募集FAX用紙

【会議概要】

- ・島田委員長より、大橋川周辺まちづくり検討委員会について(資料1、1ページ目)について説明。
- ・事務局より、大橋川周辺まちづくり検討委員会について(資料1、2ページ目)について説明。
- ・桑子作業部会長より、会の目的と流れについて説明。

テーマ :平成18年7月豪雨について

- ・桑子作業部会長より、意見聴取の方法について説明。
(以後、桑子作業部会長が進行役となり、会議を進行。)

(参加者が、各自意見を付箋紙に記入し、会場前面にある大橋川周辺の地図へ貼り付けた。)

- ・桑子作業部会長により、参加者の意見について紹介。
- ・事務局より、平成18年7月豪雨における大橋川沿川浸水被害状況(資料3)、平成18年7月豪雨 斐伊川・神戸川流域の被害概要等速報(資料2)、斐伊川・神戸川治水計画、大橋川改修事業及びまちづくり事業の流れについて説明。

テーマ :大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)について

- ・事務局より、大橋川周辺まちづくり基本方針・基本計画の作成にかかるこれまでの過程と今後の流れ(資料4)、第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果【大橋川周辺地域のまちづくりに対する想い・意見「まとめ」】(資料6)、第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果【大橋川周辺地域のまちづくりに対する想い・意見「意見一覧」】(資料7)、第2回・第3回大橋川周辺まちづくり検討委員会が出された意見に関する参考資料(資料8)、第4回・第5回大橋川周辺まちづくり検討委員会での検討結果【議論の要旨】(資料10)、大橋川周辺まちづくり基本方針(委員会案)の治水対策協議会説明会で出された意見(資料11)について説明。
- ・布野景観専門委員長より、第4回・第5回景観専門委員会からの結果報告【大橋川沿川の景観形成に関する基本方針(案)】(資料9)について説明。

- ・桑子作業部会長より、大橋川周辺まちづくり基本方針（委員会案）（資料5）意見聴取の方法について説明。

（参加者が、各自意見を付箋紙に記入し、会場前面にある大橋川周辺の地図及び大橋川周辺まちづくり基本方針（委員会案）へ貼り付けた。）

- ・桑子作業部会長により、参加者の意見について紹介。

意見交換

- ・今回の洪水では店舗が水害に遭った。内水と逆流ということについて、昭和47年と同様のことが起こっている。拡幅工事と内水対策は別の事であり、34年間で内水と逆流の対策について何もしなかったのは何故か。行政の怠慢ではないか。大橋川沿川で特に低いところが3カ所あるが、そこだけでもせめて30センチ嵩上げしてあれば、このような被害に遭わなかったのではないかと一般参加者
- ・環境検討委員会との連携はどのようになっているのか。委員の発言の中で、整合が取れていないと思える部分がある。
また、川辺の樹木の選定が柳と松となっているが、なぜ限定してしまうのか疑問である。一般参加者
- ・大橋川周辺まちづくり基本計画の公表はいつ頃になるのか。一般参加者
- ・国土交通省は新しい方法で治水対策を行うということで、遊水地を大切にしようという考えがみえる。
3点セットは膨大な計画で、これが完成するのは非常に先のこととなり、ここ5～10年の間で完成することではないと考える。3点セットのような大きな計画の完成を待つのではなく、被害を最小限にとどめるための方策はいろいろ考えられると思うので、そのような対策を行わなければ何回も水害は起こると思う。
一般参加者
- ・治水、環境、まちづくり、景観のそれぞれの関係をどのように考え、どのような手法で調整されるのか。
また、上、中、下流とそれぞれ地域を分けているが、景観、まちづくりの連続性をどのように考えているのか。一般参加者
- ・委員会が主体となって計画を作り、それを行政に提出という流れの中で、本日このような会を開催されたことは非常に感謝する。
計画対象雨量と水位について、昭和47年豪雨の1割増しである399ミリで計画されているが、この雨量では少なすぎるのではないかと。現在、地球温暖化もあり1時間に100ミリ、1日で400ミリ、連続1000ミリという雨が現実に降っている。もっと大きな雨量で計画しなければならないのではないかと。
潮位についても同様で、その変化について対応した計画となっているのか。
一般参加者
雨量については昭和47年豪雨の1割増しで計画している。
地球温暖化については、現時点では潮位も含めてどのような影響が出るのかという事について確実に解明されていない状況であり、現計画に反映す

るのは難しい。しかし、今後もその影響について調査研究等を進めていきたい。

潮位については、台風が朝鮮半島付近を通過する場合に上昇する傾向がみられるが、その場合には雨を伴っていないので、現段階では計画上問題無いと考えている。 事務局

- ・防災ということよりも減災を重点的に考えることについて、各委員で意見がないか。 桑子作業部会長

3点セットが整備されても災害が絶対に起こらないということではない。委員会でもそれをふまえて議論しているところである。 委員

基本方針については、皆さんの同意があれば今年度中に方針が決定すると思う。その後、基本計画の検討に入るが、これは具体的な議論になるために様々な意見があると思われ、どれほど時間が掛かるのかわからない。できるだけ効率的に進めていき、当初の予定では来年度末までには結論を出したいと委員会では考えている。 桑子作業部会長

内水や逆流の対策について、昭和47年の水害以降の状況として、昭和56年に松江市議会が大橋川改修計画に同意し、これから本格的な水害対策を行うという段階で、殊更そのような個別の対策を実施しようとする状況には無かったことと、更に昭和47年の水害以降奇跡的にも水害に遭わなかったため、内水や逆流の対策を行っていなかった経過についてはご了解いただきたい。

現在は、できるところは対策をしなければならないという考えで浸水対策を考えるシステムの議論を始めているが、応急対策でしかないために、根本的な大橋川改修計画を策定しなければならないと考えている。 事務局

- ・この委員会は、景観専門委員会とは密接に連携を取り、相互に反映させながら進めているが、環境検討委員会とは別々に進行している。今後は調整が必要になってくると思う。 桑子作業部会長

今年4月から環境調査を実施しており、1年から1年半をかけて行う予定である。まちづくり検討委員会へは、パンフレット等を通じて情報提供を行っており、今後も適宜情報提供を行っていく。 事務局

今後は景観と環境を保全するための諸条件を明確にし、計画に反映していく。治水と環境とまちづくりの調和について両立が難しいことだが、条件を満たすことの大切さを認識し、それぞれを掲げている。

上流・中流・下流についてはそれぞれの特徴が違うところで、ひと括りにしてしまうとそれが無くなってしまおうと考えている。特徴を出しながら連続するにはどのようにしたら良いか踏まえながら検討している。

桑子作業部会長

- ・今まで委員会を傍聴してきた。大橋は残すべきだという意見もあるが、ハーンがすばらしいと言った大橋は現在の大橋ではなく、昭和10年代に架けられた現在の17代松江大橋は耐震強度が不十分なので、例えば歩道部分は木製にして歩けば本当にカラコロと鳴るようなすばらしい橋に架け替えれば良いと思っている。また、大橋の架け替えについて、かかる時間と費用は明確にし、即座に回答できる準備を事務局はしておくべきだ。

事業を進めるにあたっては、まちづくりをどのようにしていくのかを市民の意見を聞きながら進めることが有益であると思う。 一般参加者

- ・ 今回の水害で、ダム及び放水路が完成していた場合ではどうだったのかという質問について全く回答が無い。個人的にはそれが完成していれば今回のような水害は起こっていないと思っており、ダムと放水路が出来てから大橋川の問題について考えれば良いと思っている。 一般参加者
- ・ まちづくり、治水、環境、景観の4点についてはどれも並列ではなく、環境・景観が一番である。17代松江大橋は必ず残すべきである。そうでなければ松江の景観は無い。 一般参加者
- ・ 昭和47年も今回も、浸水した場所は旧松江藩の高台のところだと思う。斐伊川が東流したのは二百数十年前であり、古代では斐伊川は神戸川の方へ流れていたため、佐陀川に流す或いは神戸川にもっと流すなど、余分な予算を使わずに治水対策として有効な方法があると考えられる。
反対するつもりではないが、良い景観を子々孫々に残したいと思っている。

一般参加者

事業の進め方については、現在議論を進めていただいている大橋川周辺まちづくり基本計画を策定し、それから大橋川改修計画の策定と、背後地整備計画の策定となる。いずれも皆様の意見を反映し、ご理解を得ながら進める予定である。それが決まれば事業の実施となり、用地買収、工事着手、完成へと至ることとなる。その時期は決まっていないが、可能な限り速やかに事業実施に取り組んでいきたいと考えている。

事業費については、現在堤防の法線しか公表しておらず、堤防や護岸、或いは橋梁の形状がまだ決まっていないため、事業費の算定までには至っていない。大橋川周辺まちづくり基本計画の検討に併せて事業費を算定していきたい。 事務局

当面の治水対策については、ハード整備とソフト整備について、現在、国、県、市で調整を図っており、当面どこまでできるのか検討していく。

3点セットは、洪水を大橋川だけでは処理しきれないため流域全体として考える必要があり、非常に難しい事業である。計画洪水時の宍道湖水位は3点セットが無いと約3.7メートル、完成すると2.5メートル、ダムと放水路だけでは2.7メートル程度となる。なお、今回の豪雨では、宍道湖の最高水位が1.96メートルとなったが、3点セットが完成していれば、約60センチ水位を下げる事ができた。

一番一緒に感じてもらいたいことは、今回の雨量は昭和47年豪雨よりも少なかったが、もし昭和47年と同様の降雨があった場合には、応急対策だけでは対応しきれないということも認識してほしい。

橋については、大橋が昭和12年、新大橋が昭和9年に完成し、70年以上経っている。構造物としての安全性の問題もあり、検討していく必要がある。また、今の計画では橋の高さを上げ、長さを伸ばすことが必要となるため、両方の橋の架け替えをどうするのが、大橋川改修で非常に大きな問題であることも十分認識している。そのやり方や進め方については、十分に議論した上で計画を立てていきたい。 事務局

- ・大橋の架け替えの問題や、治水・まちづくり・環境・景観の順位付けについては皆様の様々な意見同様に、まちづくり検討委員会の中でも様々な意見がある。なるべく多くの方が納得でき、松江というまちにとって何が一番大事なのかということを考えながら委員会の中で十分に検討していく。 桑子作業部会長
代替案についても検討を行い、資料を作成して国土交通省出雲河川事務所のホームページなどで公表している。今後、新しくいただいた代替案の意見についても公表していく。 事務局
樹種については、松江という地域の本質を掘り下げてまちづくりの基本計画を検討していきたい理由から柳と松を書いたが、誤解を生む表現については再考していきたい。
- ・今回の意見を集約してインターネット上で公開していきたい。 桑子作業部会長

その他

- ・今後の日程等について
 - ・10月31日(火) 第6回大橋川周辺まちづくり検討委員会を島根県市町村振興センターにて開催する。
 - ・大橋川周辺まちづくり基本方針についての意見は、9月20日まで大橋川コミュニティセンターで受け付ける。

閉 会